

看護婦勤務時間管理システムのオンライン化

松田 由美¹⁾ 池上 峰子¹⁾ 岩本 智裕¹⁾ 長井 勝典¹⁾ 瀬崎 静男¹⁾
 大伴 登¹⁾ 宮本 正喜¹⁾ 佐古 正雄¹⁾ 花岡 澄代²⁾ 鶴田 早苗²⁾
 神戸大学医学部附属病院医療情報部¹⁾ , 同看護部²⁾

Development of an on-line, nurse working hour management system

Yumi Matsuda¹⁾ Mineko Ikegami¹⁾ Tomohiro Iwamoto¹⁾ Katsunori Nagai¹⁾
 Shizuo Sezaki¹⁾ Noboru Ootomo¹⁾ Masaki Miyamoto¹⁾ Masao Sako¹⁾
 Sumiyo Hanaoka²⁾ Sanae Tsuruta²⁾

Department of Medical Information, Kobe University Hospital¹⁾(matsuda@med.kobe-u-ac.jp)

Department of Nursig, Kobe University Hospital²⁾

Abstract: In July 1998, following the development of a PC ordering system, we have integrated a work schedule preparation system and the over-time work management system to create on-line, combined nurse management-work scheduling system. This system tasks involve preparing work schedules and managing over-time work. The introduction of this system has yielded the following improvements: (1) Once the data concerning the allocation of nurses, etc. has been entered, the same information can be utilized for various purposes; (2) On-line communication between department of nursing and clerical department has extended the deadline that work records and over-time hours must be entered by and it has eliminated the necessity of correcting data after the deadline; and (3) Records of work orders, such as over-time hours, can be printed on ordinary paper. This system has greatly reduced the time needed for work management and has been utilized effectively by our nursing services.

Keywords: KOSMIC - NOAH, Nurse working hour management system

1. はじめに

神戸大学医学部附属病院では、看護婦勤務時間管理システムとして、平成元年 12 月より勤務計画作成システムを、平成 3 年 9 月より超過勤務時間管理システムをオフライン業務として導入した。また、平成 7 年 2 月より、看護婦の基本情報や異動・教育情報をファイリングする看護部人事管理システムを開発した。上記システムにより、勤務計画作成や超過勤務時間等命令簿作成等、勤務管理に関わる時間が短縮されるメリットを得た。

しかし、オフラインシステムとして開発した為、勤務者の配置場所等、変更があった場合は各部署で再登録を行う必要があった。また、事務部門での確認作業に時間を要するため、書類の提出日は当月の月末以前の日に設定されていた。そのため、書類提出後に勤務変更があれば、処理のやり直しを余儀なくされていた。

そこで、PC オーダ開発に伴い、平成 10 年 1 月、勤務計画作成システムと超過勤務時間管理システムを統合し、職員管理システムと勤務管理システムをオンラインシステムとして再構築した。今回は、勤務管理システム(以下 NS - MATE と略す)の概要について報告する。

2. NS - MATE の概要

NS - MATE には、大きく分けて勤務計画作成と超過勤務時間管理の 2 つの機能がある。

2.1 勤務実績登録までの流れ

(1) 看護部管理室が看護婦の職員名や配置場所、異動日、役職等の情報を、変更があれば職員管理システムに登録する。(2) 職員管理システムに登録した情報を基に、各病棟で看護単位、経験区分や勤務の組み合わせ等の禁止又は優先条件、勤務表の表示順等、勤務表作成に関わるルールを登録する。(3) 研修や委員会、休暇等、勤務の要請や希望を入力する。(4) 自動シュミレー

ションを利用し、勤務計画を作成する。(5) シュミレーションされた勤務計画を修正する。(6) 決定した勤務計画を勤務実績として登録する。(7) 勤務に変更があればその都度、勤務実績を変更登録する。

2.2 超過勤務時間管理の流れ

(1) 勤務実績情報より各部署で超過勤務時間とタクシー不使用者入力を行う。(2) 超過勤務時間等の計算処理を行う。(3) 超過勤務時間管理で登録された情報は、事務部門へ伝達される。

2.3 NS - MATE での作成帳票

NS - MATE で作成出来る帳票には、勤務計画表、勤務実績表、超過勤務時間等計算書、超過勤務時間等命令簿等がある。新規帳票として、準夜勤務タクシー乗車一覧表、タクシー不使用者調書、タクシー不使用者一覧表が出力可能となった。また、超過勤務時間合計一覧表も EXCEL 形式でデータ出力が可能になった。

2.4 他システムとの関連

その他、看護オーダへ勤務実績情報が取得される。看護日誌システムへ勤務者情報として印字されたり、看護要員情報の統計作成データとなる。

2.5 システム運用について

NS - MATE の使用者は、看護管理者である看護部長・副部長・病棟婦長としている。副看護婦長は勤務計画作成機能に限定して使用可能としている。使用者の限定はパスワード機能により行われている。当院でのシステム運用は図の通りである。(図 1)

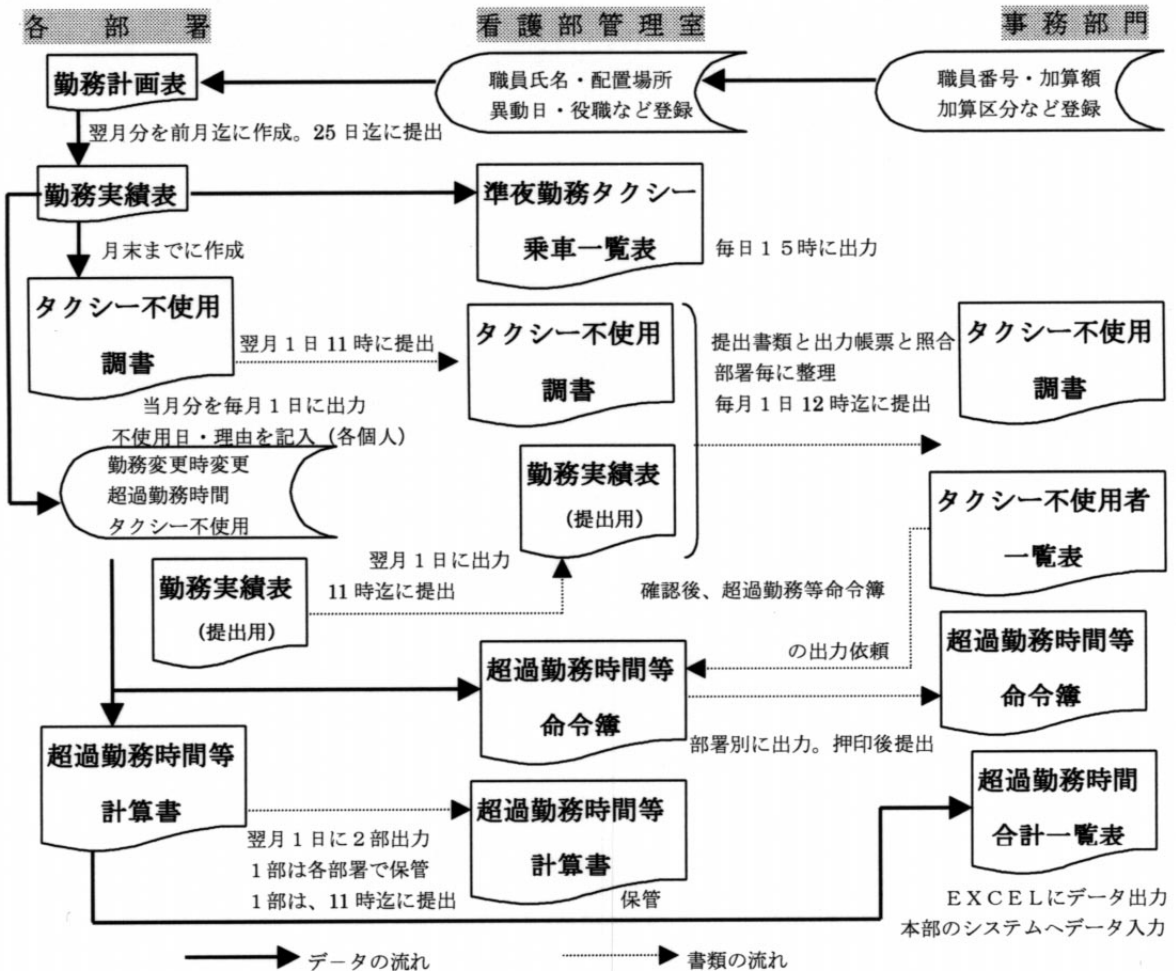


図 1 システム運用図

3. NS - MATE 導入後の改善点

NS - MATE 導入による改善点は、(1) NS - MATE 導入以前は、看護婦の配置場所等、変更があれば各部署で変更者の情報を再登録し直す必要があった。NS - MATE 導入後は、情報の引継が可能となり、各病棟で再登録を行う手間が解消された。(2) NS - MATE 導入以前、事務部門で勤務実績や超過勤務時間の確認の為、勤務実績は当月の 25 日、超過勤務等計算書は当月 28 日迄に提出締切期間が決められていた。その為、当月 25 日以降に勤務実績の変更があったり、超過勤務時間の変更があった場合、修正後再提出の手間を要していた。事務部門とのオンライン化で、提出された帳票のみの確認から、入力データをまとめた一覧表との比較確認が可能になった。よって、帳票確認作業の手間が簡略化され、勤務実績や超過勤務時間の入力が当月中可能となった。このことにより、締切期日が翌月 1 日に延長され、勤務変更に伴う修正は無くなった。(3) NS - MATE 導入以前は、超過勤務時間等命令簿を専用紙に出力していたが、導入後は汎用紙で出力でき、専用紙への交換の手間が解消された。

4. NS - MATE 導入後の問題点

NS - MATE 導入後、職員情報の再登録の手間がなくなった反面、確定していない情報を登録できないという問題点が上がった。例えば、導入以前は新規採用者

情報が確定しなくても、各部署で仮の情報入力枠が確保出来ていたため、職員氏名不明のまま計画表を作成できた。導入後は、配置場所等、新規採用者情報が確定しないと各部署で入力できないため、勤務計画作成が遅れた。この問題については、新規採用者を仮登録できるプログラムを追加して対応を行った。

5. おわりに

NS - MATE の導入により、手書きによる作業は少なくなり、確認作業も簡略化された。よって手書きによるミスは少なくなり、発見もしやすくなった。この事により、勤務管理に関わる時間は導入前より余裕をもてる様になり、有効に看護業務へ活用されている。

参考文献

- [1] 池上 峰子他：超過勤務管理システム導入後の評価、第 8 回看護情報システム研究会、64～61、1993。
- [2] 池上 峰子他：神戸大学医学部附属病院における超過勤務時間管理システム、平成 3 年度国立大学病院医療情報システムシンポジウム、56～61、1992。
- [3] 桜井 律子他：病院部門における出退勤および超勤管理システム、第 57 回医療情報システム研究会、59～64、1989。
- [4] 阿部 三枝子他：北海道大学医学部附属病院における勤務管理の一元化、第 7 回看護情報システム研究会講演集、20～27、1992。